

平成 27 年度 学校教育自己診断結果(分析と考察)

1 結果の抜粋

・「大塚高校を選んでよかった」について

生徒の肯定値(ポイント)では体育科が高く、3年生で91.9(前年度91.4。()内以下同じ)、2年生で79.5(82.6)、1年生で81.3(69.9)となっている。普通科では3年生73.9(71.0)、2年生52.6(66.4)、1年生58.3(60.0)となっており、2年生でのポイント低下が目立っている。(体育科も少し低下)

・「授業は工夫されていてわかりやすい」について

生徒のポイントは、普通科で3年生51.1(45.5)、2年生34.5(52.2)、1年生48.5(48.9)と3年生以外は下がっているおり、同様に体育科でも3年生61.3(66.1)、2年生50.60(64.3)、1年生70.9(65.3)と下がった。

・「校則や決まりは適切だと思う」について

生徒のポイントは、体育科で3年生94.6、2年生94.9、1年生98.8、普通科で3年生84.6、2年生89.3、1年生90.9と、いずれも高い値を示しており、規律マナーの指導が生徒に浸透していると考えられる。

・「授業や部活動を通じて小学校や中学校、地域の方々と交流する機会がある」について

体育科では3年生73.0、2年生68.2、1年生65.0であるのに対し、普通科では3年生27.6、2年生32.2、1年生40.0と低く、運動部活動を通じての交流活動は行われているものの、認知が低いと認められる。

・「子どもが大塚高校を選んでよかった」について

保護者のポイントは、体育科の平均が91.6、普通科が83.7といずれも高い値を示し、学校の教育活動について理解され受け入れられていると言える。

2 結果の傾向と分析

昨年度からのデータを比較してみると、大きく変化しているのは「体育科」の数値である。ほとんどの項目において大幅にアップしており、府立高校体育科としての成熟を得たと言える。年間を通じての様々な体育的な行事や工夫を凝らした授業、部活動での充実した活動など、総合的な成果によるものであると言えるだろう。特に「私は授業に積極的に取り組んでいる」のポイントが体育科全学年で伸長しており、生徒が自ら学ぶ姿勢を授業で保ち意欲的に取り組んでいる様子が伺える。それから、普通科では学年によって多少の変動があったものの全体的に例年並みの結果であった。

他のデータでは普通科の場合、2年生の肯定値低下が目立っている。19の質問でポイントアップした項目は、6「私は出された課題や宿題はきちんと取り組む」74.2%(昨年度70.0%)、8「校則や決まりは適切だと思う」89.3%(昨年度88.9%)の2項目のみであった。また、その他の肯定値でも平均して13%程度の下がっており、要因を特定しにくい状況にある。但し、低下した項目で、3「授業は教え方が工夫されていてわかりやすい」や4「選択科目の指導は適切に行われている」が18~20%と大きく下がっており、授業のあり方や指導方法が問われているように思われる。

3 まとめ

ここ近年、本校では部活動において他の府立高校を牽引する実績を残し続けている。これも長年積み上げてきた生徒、保護者、地域など学校全体での成果であり、今後この分析結果を生かし様々な教育活動を通じて生徒の学ぶ意欲を育みたいと考えている。